

生協労連 平和活動交流集会 in 青森に参加して

尾島 忠

4月20日(金)PM9:20 岡山駅から高速バスを利用して、東京駅まで約9時間の移動。
21日(土)AM6:00には駅前に降り立ちました。青森県八戸市までは、AM8:28 発の東北新幹線で行くので、約2時間半の余裕が…。

そこで思いついたのが、東京スカイツリーを見に行くこと！そう！浅草に行くこと！
東京駅に荷物を置いて(!)、早々と東京メトロに…。ここで、気がついた方もおられようが、なぜ東京駅に荷物を置いてしまったのか？東北新幹線は、上野駅にも停車するのです…。

そもそも、高速バスは、浅草まで乗っていけました。最初からしっかりと計画していればと、後の祭りでした。

浅草には、AM7:00頃着き東京スカイツリーを写真におさめ、慌てて東京駅に戻りました。出だしから波乱万丈の兆しが…。



やっとの思いで東京駅に着いたのですが、ロッカーの場所が…。そう、東京駅は広いのです。散々探し周り目的の荷物を携え、朝食の駅弁を買い、憧れの東北新幹線に！

AM11:30 八戸駅に到着。集合時間のPM1:00までの間に昼食を取り、バスで六ヶ所村へ出発しました。(ガイド:小山内 孝氏)

みなさんは、六ヶ所村ってご存知ですか？私は、名前は聞いたことがありますが、場所も全然知りませんでした。六ヶ所村は、下北半島の付け根の部分にあって、明治22年の町村制施行の際6つの村が統一されて「六ヶ所村」と命名されたそうです。(6つの

とまり でと おぶち たかほこ ひらぬま くらうち

村:泊、出戸、尾駈、鷹架、平沼、倉内…馬にまつわる名前だそうです。)

海岸の近くに、昭和8年3月3日の昭和三陸地震の記念碑が建っていました。



その六ヶ所村に、なぜ核燃料サイクル施設ができたのか？

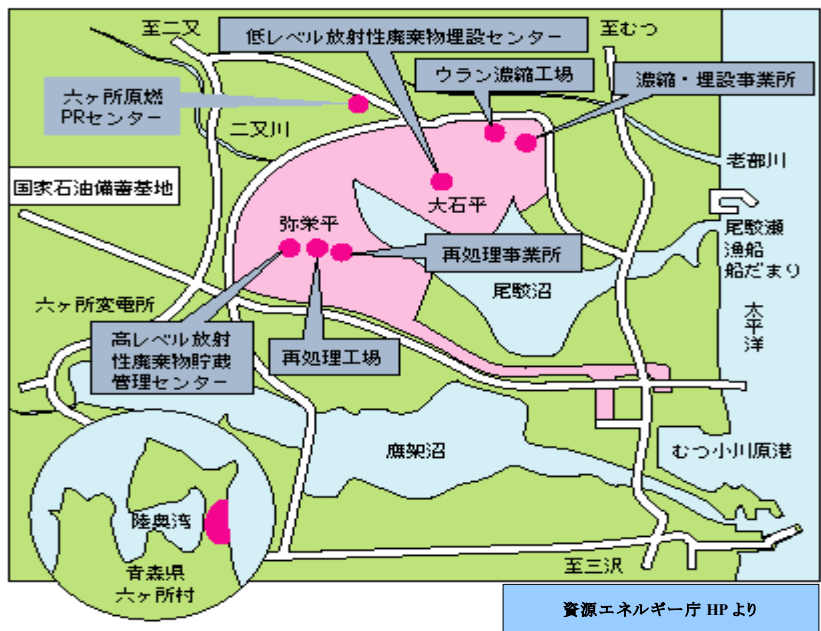
村は、漁業・農業・酪農で、主だった産業がなく、貧しい村だったそうです。1970年頃むつ小河原巨大開発が、新全国総合開発に盛り込まれ、国・県・民間により開発がスタートしましたが、オイルショックにより、ストップしてしまい、約2000億円の赤字が残ることに。1985年に、その救済として県が受け入れたのが、核燃料サイクル施設だったそうです。

核燃料サイクル施設とは。

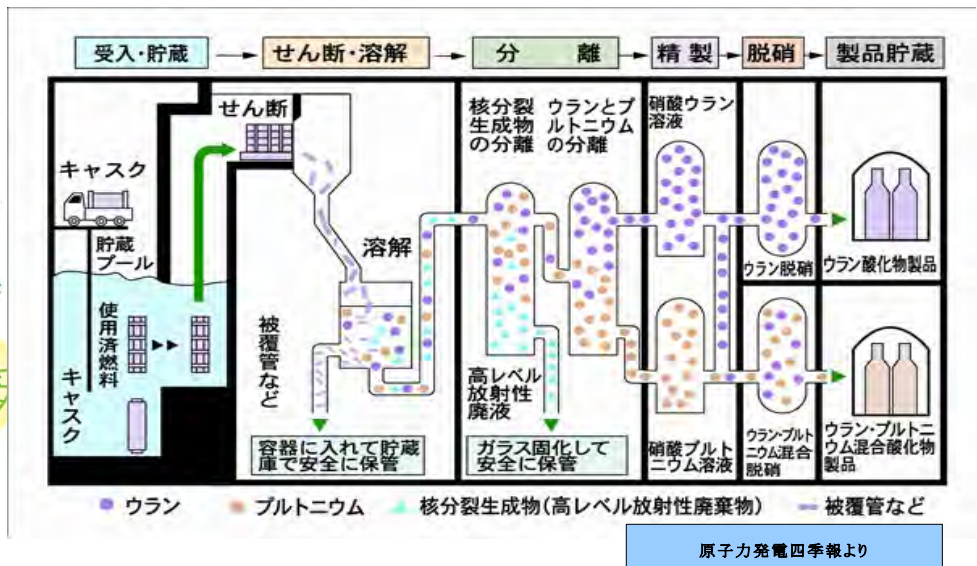
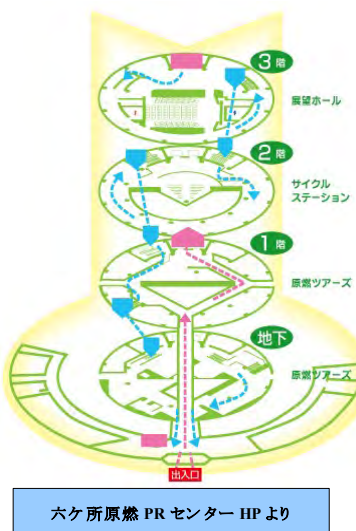
- 1.ウラン濃縮工場(1992年操業開始)
- 2.低レベル放射性廃棄物埋設センター(1992年埋設開始)
- 3.再処理施設(2012年竣工予定)
- 4.高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター(1995年操業開始)

の4つの施設からなり、日本原燃(株)により建設、操業されています。

道中、とっても広い土地に、人気がないのにビックリでした。時折、森の中に原燃の施設が見え隠れし、それと対照的に大型の風力発電施設(ウインドファーム)がたくさん見え、原子力とのミスマッチな風景が異様でした。そして、森と黒い土と海岸しかないところをバスは走りぬけ、六ヶ所原燃PRセンターに到着しました。



PRセンターでは、主に再処理工場の仕組みの事を見学して周りました。



生協労連 平和活動交流集会 in 青森に参加して

尾島 忠

再処理工場とは、原子力発電所で作られた使用済燃料(核の廃棄物)から、燃え残ったウランと新しく出来たプルトニウムとを取り出し、これらを再び MOX 燃料の原料として使えるようにするものです。

しかしながら、この MOX 燃料を使えるようにする加工工場はまだありません。原子力発電所も、福島第一原発事故以来、ほとんどが停止状態にあり、稼働中のものも残り 1 機で、再稼働の目処が立っていません。MOX 燃料を使う高速増殖炉「もんじゅ」もまた、実験段階で失敗を繰り返しています。また、プルトニウムは、毒性が強く、強力な放射能を持っていて、とても危険な代物です。再処理過程で出てくる高レベル放射性廃棄物は、高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)にして保管されますが、ガラス固化体にする技術は日本に無く、イギリス・フランスで加工され戻ってきたものを冷却・貯蔵しています。

ではなぜ、核燃料サイクルにこだわるのか?もちろん、考えとしては理想のエネルギーと言えるかもしれませんが、安全が第一です。これまでの安全神話は、失墜しそれでもまだこだわっているのは…。プルトニウムは、持っていること自体が脅威となります。なぜなら、原子爆弾の原料となりうるものだからです。その事はつまり、合法的に核物質を持てることだと言えます。くれぐれもそうならない事を望みます。



ウィキペディアより

三沢基地周辺をバスで移動しながら見学し、宿泊先の青森屋に到着。

2 日目は、核燃反対運動の先頭に立たれていた菊川慶子さんの講演を聞くことができました。1990 年春に、千葉県松戸市から六ヶ所村へ戻ってきて、電力行政の矛盾を暴き、広く伝える運動を始められたそうです。昨年までチューリップまつりを行い、多くの方に六ヶ所村を知ってもらう場となったそうです。現在は、ルバーブジャム(シベリア原産の多年草)を作り、販売を行なっているとか。また、外から反対運動に来た人が寝泊り出来るように、「牛小屋(牛舎を改修)」を無料で提供しています。反対運動を始めた当初、同じ反対仲間だった方も、代が変わりその子供は核燃関係の仕事に就き、難しい関係になってきたりもしたとか。長く運動を続ける上での難しさも語られていました。



最後に、2 目の朝 AM4:00 に起き、三沢市内をランニングしましたが、途中道に迷いコンビニに飛び込んで帰り道を聞き、何とか朝食にありつけました。やっぱり、こんな展開が…。でも、2 日間天気にも恵まれて、とっても良かった 2 日間でした。家に帰って、新聞を開いたところ、「国策転換へ透ける意図 核燃料処理コスト 原子力委試算」や「プルトニウム計画未作成」の文字が…。そう、今までいたところに関する記事が載っていました。今まで何気なく、遠いところの話の様に感じていたのが、とても身近に感じました。

今回の交流集会には、21 単協 64 名 (ガイド、講師、書記局を含む) の参加でした。



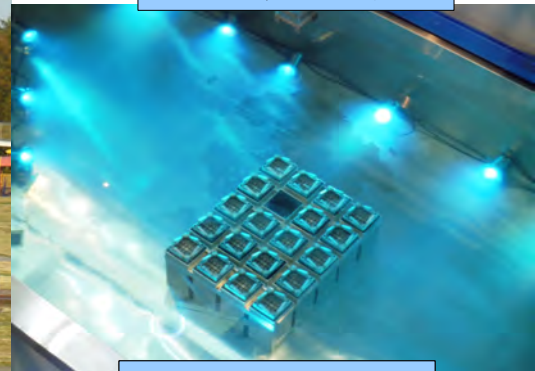
六ヶ所原燃 PR センター
MAPPLE 観光ガイドより



むつ小河原ウインドファーム



三沢基地



使用済燃料



低レベル放射性廃棄物



東北新幹線 E5 系はやぶさ